

<研究成果の紹介>

Webページ開設農業者が求めるインターネット農業情報

企画経営グループ

1. 成果の内容

近年、急速に普及しているインターネットは、農業者にとっても農業情報を入手する新しい情報チャンネルとして確立してきており、行政や試験研究機関をはじめとする農業関係の諸機関にとってインターネットを活用した情報提供は、今後、益々重要になると考えられます。そこで、インターネット情報の先進的農家としてWebページ（ホームページ）を開設する農業者に対して意識調査を行い、情報源として利用するWebページの特徴と、そこにどのような種類の農業情報を求めるのか明らかにしました。

調査は検索エンジンを用いて抽出した全国のWebページ開設農業者531名を対象とし、電子メールにより設問を送信したところ199の有効回答（有効回答率37.5%）を得ました。

様々な農業情報源の中でWebページの特徴を明確にするため、各種情報源に対する調査データの分析を行いました。その結果、Webページの利用特性は、堅実性よりも簡易に情報を取得できる情報源として位置づけられ（図1）、そして自己経営との適合性が必要な営農支援情報よりは生産支援のための技術

情報に有効性を認めていることが明らかとなりました。また、重要な意志決定場面での有効性は他の情報源に比べ、現状ではまだ低いといえます。

さらにWebページ上で提供される農業情報では「新技術・新品種」に関する情報や、「関係する情報のURLデータベース（リンク集）」つまり消費者・販売者・農業者間のネットワーク情報に対して強い要求がありました（図2）。

2. 技術の適用効果と適用範囲

農業関係機関がインターネットWebページを通して農業者のニーズに応える情報を効率的・効果的に発信する上での参考となります。

3. 普及・利用上の留意点

農業情報の提示項目は概念的なものであり、要求度の高い項目についてはより具体的な内容を明らかにする必要があります。また、情報化社会の動きは日進月歩で、これに伴いニーズも変化する可能性があることから継続した観察が必要です。

（糀谷 斉）

